

令和5年度第3回伊賀市文化振興審議会 議事録

■日 時／ 令和6年2月20日（火）午後2時00分～午後4時20分

■場 所／ 伊賀市役所本庁舎4階 406会議室

■委員

学識経験者		中川 幾郎	帝塚山大学（名誉教授）	出席
文化関係団体	文化芸術振興全般	中村 忠明	伊賀市文化都市協会（理事長）	欠席
	俳句文学関係	植田 美由喜	芭蕉翁顕彰会（事務局長）	出席
	美術関係	小島 憲二	市展「いが」運営委員会	出席
公共的団体等	教育関係（小・中学校）	五百雀 豊	校長会	出席
	教育関係（幼児教育）	若山 みゆき	幼児保育担当	欠席
	福祉関係	田邊 寿	伊賀市社会福祉協議会（事務局長）	欠席
専門知識を有する者	文化財関係	福田 良彦	伊賀市文化財保護審議会委員	出席
	観光関係	稲垣 八尺	伊賀上野観光協会（専務理事）	欠席
	産業関係	菊野 善久	上野商工会議所（副会頭）	出席
公募委員		山本 いずみ	-	出席
その他市長が必要と認める者		小阪 のり子	（画家）	出席

**事務局**

[伊賀市企画振興部] 風隼部長、佃次長

[文化振興課] 西村課長、奥田

[美術博物館建設準備室] 馬場室長

**オブザーバー**

[公益財団法人伊賀市文化都市協会]

服部参事、杉本事業課係長、百南事業課係長

■内 容

- 1 あいさつ
- 2 報告事項
  - (1) ヒアリングについて
  - (2) 子どもが出合う文化についてのアンケートについて
- 3 協議事項
  - (1) 今年度と今後の取り組みについて
- 4 その他
  - ・委員の任期について
  - ・伊賀市からの報告

## ■議事録

### 1 会長あいさつ

会長	伊賀市は、文化振興条例と基本計画と審議会の3点セットを持っており、文化行政の先頭グループに入っている。文化政策は後回しにされがちだが、条例に基づく計画が基本計画であり、基本計画どおりに進んでいるかをみる外部評価機関が審議会である。人権に根ざす芸術文化行政への歩みを進めて欲しい。
----	---

### 2 報告事項

#### (1) ヒアリングについて

事務局	(資料1に基づき、ヒアリングについて説明)
会長	説明に対し意見をお願いする。
オブザーバー	生涯学習において、地域の要望や現状課題を把握したうえで行うべき事業が見えていないため、前年ベースで事業が行われていることが多い。文化事業運営に関する研修などを自治協に協力したい。
委員	ダンボールアートは素晴らしい事業だった。継続してほしい。子どもが親子で見に来ていて、とても嬉しそうだった。そんな中でアーティストが生まれてくる。
委員	ヒアリングで事業カードが出てくるのは、成果といえる。生涯学習を自治協に、図書館を民間に運営委託することについて、市が運営方針を明確に示し委託すべき。
会長	文化振興条例の所管は、文化財、生涯学習、図書館、公民館、美術館、博物館に至る。それらの連携が必要。これはこれ、それはそれとならないように。総合行政である。
事務局	文化条例の研修を行っていく。
会長	文化振興条例は公民館、図書館、博物館、美術館、劇場、音楽堂等、全体を統括する上位規範である。専門的には各審議会に任せ、広い視野のなかで伊賀市の文化政策を行うのが審議会である。事務局は、事務局同士の連携が必要。専門部会の意見を受けながら、総合調整するのが審議会の役目である。
委員	総合行政は、課レベルでは難しい。進捗管理だけで精一杯である。課より上の部単位など、市役所全体で取り組むべきである。条例による審議会であり、それだけの重みがある。
会長	調整に苦労が多いなら、部長級の合同会議や文化行政推進会議といったものを設置し、定期的に情報交換するという方法がある。横の推進会議である。

#### (2) 子どもが出合う文化についてのアンケートについて

事務局	(資料2に基づき、子どもが出合う文化についてのアンケートについて説明)
会長	説明に対し意見をお願いする。
委員	子どもたちは、忙しくて時間がない。子どもだけで参加できる事業など、子どもの状況に合う事業をするのが難しい。子どもたちに早めに予定してもらうために、市全体の年間事業情報の作成を望む。
委員	需要と供給の問題ではないか。アウトリーチでも、学校の要請との擦り合わせが求め

	られる。市内に映画館がないのに映画館へ行った数が多い。需要があるものを充実させたらどうか。
委員	<p>学校の授業の一環として事業の希望があるが、年間計画がある。年度当初なら年間計画に入れることができる。実施したアウトリーチ事業では、社会科で学習し、地域との結びついている部分があり、子どもたちは目を輝かせ、非常に興味を持ってみることができ、感想もとてもよかった。</p> <p>水曜日は部活がない。機会の持ち方は、家庭の事情による。</p> <p>学校から配るチラシが保護者に届いているとは限らない。スマホやDXを活用した啓発も必要。</p>
会長	<p>今後の改善に資する観点がいくつか出た。</p> <p>学校は、年度当初のカリキュラム編成で精一杯である。そこへのアウトリーチ事業は、どう受け止めてもらえるか。校長会の窓口を通じて安定的なルールが必要。</p> <p>子どもは忙しいといわれるが、経済的格差による不安を感じている。塾に行かせてもらわず、ほったらかしになっている子どももいるかもしれない。そのところを拾い上げる施策を文化政策担当のほうからアプローチできないのか。</p> <p>子どもをめぐる家庭環境が急速に悪化している。母子・父子家庭、貧困家庭などの子どもたちをどうすれば地域は救済できるのか、行政や社会教育は考えなければいけない。リサーチする必要がある、学校とも協力しながら現実を把握しておいてもらいたい。校長会の窓口は、非常に大事である。</p>
委員	親に興味がないと申し込まない。学校も忙しいとは思いますが、学校の授業でしてあげてほしい。
委員	単独事業が難しければ、近隣自治協と合同で事業を企画したい。日常の中で、アートなどに触れられるようにしてほしい。
委員	子どもを対象に10年近く行っている事業がある。チラシは配布して終わりではない。校長会で何度も説明しており、主旨の伝達が必要。コミュニケーションが大事。
会長	事業のスポンサーになるとか、事業の買い取りとか、事業所との連携事業の開発はできているか。従来の協賛や共催ではなく、露出度を高めた住民と事業主とが接近できるよう考えてほしい。
オブザーバー	1口いくらかで協賛をお願いしている。約30件、隔月刊の情報誌に社名掲載、招待券配布をしている。スポンサー依頼は、新しい発想で、内部で検討することになる。協賛によるメリットを問われるが説明ができないのが現状である。
会長	行政への問題提起として、ファンドレイジング（外部資金調達）やふるさと納税の枠組み、企業メセナ活動の研究開発が必要。本当の意味での文化の市民化ができない。
委員	美濃加茂市民ミュージアムでは、各小中学校が年2回、ミュージアムで授業を受けている。伊賀市の美術博物館でも、学校との連携が大事だと考えている。自治協、商工会議所、事業者の方々ともウィンウィンになれる部分を考える核になる存在にしたい。
会長	文化政策全般の総合調整から浮かび上がる課題として、 第1は、学校アウトリーチ、インリーチ事業の需要と供給のバランスと連携。

	第2は、ふるさと納税やファンドレイジング、企業メセナの仕組みを考えること。 第3は、学校のクラブ活動の地域移行へのバックアップ。 第4は、地域の人材、コミュニティスクールの活用方針を出していくこと。 これらに関係課に問題提起してほしい。
委員	学習指導要領が改定されると、探求の時間が設けられる。その時間は学校の裁量により文化芸術につなげることも可能。
会長	移送費の予算をどこからもってくるか、研究課題である。
オブザーバー	移送費の単年の助成制度はあるが継続したものがない。総合的な文化政策を検討できるとよい。学校との意思疎通について、相互理解を深める体制ができつつある。

### 3 協議事項

#### (1) 今年度と今後の取り組みについて

事務局	(資料3に基づき、今年度と今後の取り組みについて説明)
会長	説明に対し意見をお願いします。
委員	3年目になり、この審議会の中で出てきた結果、成果が出てきていると感じる。
会長	よかった。事業カードの提出がない部署には提出を促してほしい。事業実施主体が提出していればなくてもよい。条例・ビジョンの周知拡大のためのロゴマーク作成はどうするのか。
事務局	市民に周知するには、公募は有効でもある。この場で揉んでほしい。
会長	中・高校生を主として応募を呼び掛けることとする。 暇と金と体力を持って余している強い者勝ちの生涯学習はやめてほしい。生涯学習支援員には、文化の計画や精神の研修をしてもらいたい。

### 4 その他

事務局	(委員の任期、岸宏子記念伊賀文学館の開館、伊賀市美術博物館基本構想策定の経過、芭蕉翁生誕380年記念事業について説明)
委員	芭蕉の句が入った食器を学校給食で使用することは、良いことだと思う。芭蕉祭のポスターを12枚にしてカレンダーにするなど、特別な取り組みはないか。
事務局	芭蕉祭ポスターは、芭蕉がモチーフであった。芭蕉 de アートでは、切口を広げた作品募集を行う。反響が大きければカレンダー、ノベルティにすることも考える。芭蕉祭ポスターは継続する。
委員	忍者市駅地下通路の掲示板が寂しい。美術博物館建設に合わせて、何とかして欲しい。生誕380年記念事業のオープニングイベントの告知はいつ行ったか。
事務局	12月1日。
委員	遅い。計画は早めをお願いしたい。大人だけでなく、子どもも芭蕉生家などを回るスタンプラリーなどをしてほしい。
委員	生誕380年事業は、早く計画を立て効果的な周知と早めの情報公開を望む。
委員	アート表現には瞬時にできる表現と時間をかけてする表現がある。企画を成功させ

	るために早目に周知すべき。
会長	プロのコンサルティング会社が入っていないので、素人くさい状態が出てくるが、健康ではある。
司会	以上で、令和5年度第3回伊賀市文化振興審議会を終了する。